



第24回常任理事会

日時 平成20年3月11日(火) 18:02~19:44
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、柳山・山本・北野・渡辺・三戸・小山・目黒・原田・藤原・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、高木・中村各監事

(事務局：島影事務局長ほか12名)

[会議に先立ち、原田常任理事が本年3月31日をもって退任される旨、長瀬会長から報告があった]

協議事項

第1号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件(渡辺常任理事)

〈決定〉

申請のあった日医生涯教育講座27件、道医認定生涯教育講座24件、合計51件を承認する。

報告事項

1. 北海道自動車保険医療連絡協議会[2月28日(木)]について(目黒常任理事)

損保側委員と意見交換を行った。小職から「日医労災・自賠責委員会の答申(自賠責保険関係)について解説を行った後、健保強要や支払遅延、新基準の不徹底等の問題点について意見交換した。また、道内のトラブル案件の状況について報告し、損保側に支払遅延等がないよう改めて要望した。

2. 郡市医師会介護保険担当理事連絡協議会[3月1日(土)]について(原田常任理事)

三宅副会長より開会の挨拶後、報告事項として、小職より日医会長諮問「地域医療から捉えた地域ケア体制整備について」に対する介護保険委員会での検討内容および答申となる同委員会報告書案について説明を行った。また、北海道高齢者保健福祉課・介護保険課の山本医療参事より「北海道地域ケア体制整備構想について」ならびに療養病床の再編成と円滑な転換に向けた支援措置について特別講演が行われた。質疑では、介護療養型老健施設への転換などについて質疑応答が行われた。

3. 勤務医懇談会[3月4日(火)・函館市]について(北野常任理事)

道南ブロック管内の医療機関勤務医を対象に開催した。長瀬会長の挨拶の後、小職から「開業の動機と開業前の就労に関するアンケート」調査結果について、目黒常任理事から「救急医療体制の現状と課題について」をテーマに話題提供し、その後、意見交換を行った。参加者は34名であった。

4. 都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会[3月5日(水)・日医]について(西里常任理事)

今回の改定内容について、日医・鈴木常任理事より説明がなされた。今後は道社会保険事務局・道国保課との打合せを経て、3月20日に郡市医師会社会保険医療指導委員連絡協議会を開催、行政側より各委員に対し改定内容を説明する。また、3月23日から各地で開催する伝達講習会においても同様に各会員・医療機関職員に対し説明し周知する。

5. 日医感染症危機管理対策協議会[3月5日(水)・日医]について(三戸常任理事)

感染症法の改正により、鳥インフルエンザ(鳥→人)を二類感染症に位置づけたこと、また、新型インフルエンザ(人→人)となった場合は一類感染症と位置づけ検疫措置、入院措置等蔓延防止策を拡大したこと、予防接種法の改正により、麻しん・風しんの定期予防接種が、現行の対象に加え中学1年、高校3年にも拡大したこと、肝炎対策として検査体制の強化、インターフェロン療法の促進などの国の予算が大幅に増額となったことが報告された。

6. 「新たな死因究明制度等」に関する都道府県医師会担当理事連絡協議会[3月6日(木)・日医]について(山本常任理事)

日医で実施した医療安全調査委員会設置に関するアンケートの集計結果は、「明らかにしなければならない点を明らかにしなければならないが、創設すべきである」が27医師会、「創設すべきでない」が16医師会、「創設すべきでない」が4医師会であった。不完全ではあるが、早期に創設すべきであるという意見が多かったが、不明な点を明らかにした第3次試案が示されることを切望する。

7. 都道府県医師会情報システム担当理事連絡協議会[3月6日(木)・日医]について(藤原常任理事)

会長挨拶(岩佐副会長代読)に引き続いて、中川常任理事から趣旨説明がなされた。引き続き議事に入り、IT化推進検討委員会答申について大橋委員長から説明があった。次いで、上野日医総研主任研究員から「レセプト情報等の活用に関する検討会報告(厚労省)」「レセプトオンライン請求」「日医標準レセプトソフト」「社会保障カード(仮称)に関する見解(日医)」について、矢野日医総研主任研究員から「日医認証局」について説明があった。質疑応答では、レセプトオンライン請求に質問が多数あり、日医のスタンスは従前通りで変わらないとの回答があった。なお、小職からテレビ会議システムによる研修会の単位認定について要望してきた。

8. 在宅緩和ケア対策推進事業[3月8日(土)]について(渡辺常任理事)

札幌医大麻酔科・並木教授のコーディネートにより「在宅がん緩和対策の推進を目指して」をテーマに開催した。出席者は77名。前半はシンポジウムとして開業医、訪問看護師、がん拠点病院、ネットワーク、行政それぞれの立場から、その現状と展望について発表、後半は医療法人爽秋会岡部医院院長の岡部健氏より「在宅ホスピスケアの現状と未来」について講演が行われた。各々の発表、講演に対し、活発な質疑が行われた。

9. 医療政策シンポジウム[3月9日(日)・日医]について(直江常任理事)

日医会館講堂で開催され約350名が出席。テレビ会議システムにより道医会館でも聴講した。唐澤会長に代わり、竹嶋副会長が挨拶。中川常任理事の司会のもと、神野直彦東大教授、田中滋慶大教授、山口二郎北大教授、評論家の立花隆氏が「脱『格差社会』と医療のあり方」をテーマに講演した。神野・田中・山口教授は、ともに社会保障、とくに医療・介護に市場原理を持ちこむのは、患者など弱者への負担移転になると批判した。立花氏は、「僕は全身『生活習慣病』と述べ、昨年12月には膀胱がんを手術したことを明かし、公共事業に投資する分を医療費に充てるべき」と強調した。パネルディスカッションでは、企業税率、消費税の引き上げ、医療保険料の事業主負担問題などが議論された。

10. 日医各委員会報告

(1) 医事法関係検討委員会答申書について

(西里常任理事)

平成19年12月7日までに12回の委員会を開催し、この度答申書ができ上がった。特に医師の応招義務、患者との関係について具体的に示してあるので、機会があればご覧いただきたい。

(2) 日医自浄作用活性化委員会[3月10日(月)]について(深澤常任理事)

2年間にわたり検討を重ねてきた委員会答申「自浄作用活性化推進に向けてのハンドブックの活用と地域医師会における自浄作用の活性化について」の最終検討を行った後、石川委員長から会長代理で出席された竹嶋副会長に手渡した。

11. 外部各委員会報告

(1) 北海道医療審議会第2回医療法人部会[2月27日(水)]について(畑副会長)

設立認可申請は、病院1件、医科診療所8件、病院の合併1件、解散認可申請は、医科診療所9件全て『可』とされた。また、非医師による理事長就任は、診療所1件で『可』とされた。

(2) 新たな認定基準の在り方検討委員会[2月29日(金)]について(直江常任理事)

過去4回にわたる委員会にて検討してきた、認

定基準、研修期間・場所等について議論を行い、報告書に纏められた。北海道においては、基本的に文科省のガイドラインに沿った形で行う方向となった。

(3) 北海道精神科救急医療システム連絡調整委員会[2月29日(金)]について(北野常任理事)

北海道精神科救急医療システム整備事業の実績等について報告後、各ブロックにおける実施状況および課題について意見交換を行った。また、新たな体制整備に向け検討を行うための「検討作業部会」設置が了承された。

(4) 第2回北海道犯罪被害者等支援推進委員会[3月4日(火)]について(宮本副会長)

国の犯罪被害者支援に関する3つの検討会の最終取りまとめ(案)の概要、北海道犯罪被害者等支援基本計画に基づく施策の推進状況等について説明を受け、意見を交換した。

12. その他

(1) 医師臨床研修部会報告書・医師法等関係手続規則の一部改正省令案に対するパブリックコメントについて(渡辺常任理事)

医道審議会医師分科会医師臨床研修部会報告書を踏まえ、医師法第16条の2に規定する臨床研修に関する省令の一部改正を行うため、行政手続法に基づく手続として、3月23日までパブリックコメントを行うこととなっている。ご意見があれば要領により応募していただきたい。

(2) 医師勤務実態調査について(畑副会長)

道地域医師確保推進室から、医師不足が深刻化する中、地域医療確保対策検討の基礎データを得るために、道内全病院を対象として勤務状況等に関する実態調査を当会および北海道病院協会を実施主体として行いたいと依頼があった。調査票をさらに点検し、調査結果は非公表、目的外使用しないことを条件に了承した。

道総医協関連事項

1. 第4回救急医療専門委員会[2月29日(金)]について(目黒常任理事)

「本道における航空医療体制のあり方について」の報告書(改訂版)、および平成18年度ドクターヘリ事業実績報告等について、説明があった。その後、平成18年度ドクターヘリ事業の評価および日鋼記念病院の救命救急センターの廃止について、協議を行った。

2. 第41回北海道総合保健医療協議会総会[3月11日(火)]について(宮本副会長)

昨年3月から合計6回開催した計画特別委員会(委員長:宮本)における検討、パブリックコメント・地域意見交換会の意見等を踏まえて原案とした「新しい北海道保健医療福祉計画」「北海道医療計画」を承認した。今後、北海道医療審議会、開会中の第4回定例道議会の審議を経て成案となり、4月から実施される。

第26回常任理事会

日時 平成20年3月25日（火）18：03～19：29
場所 北海道医師会館9階・理事会室
出席者 長瀬会長、三宅・宮本・畑各副会長、柳山・山本・北野・渡辺・三戸・小山・目黒・原田・藤原・深澤・西里・直江・橋本各常任理事、水元・中村各監事
(事務局：島影事務局長ほか12名)

協議事項

第1号 母体保護法指定医師の指定に関する件 (深澤常任理事)

〈決定〉

3月19日の審査委員会で指定「可」とされた再審2名の申請者を指定医師とする。

第2号 外部委員会委員等の一部変更に関する件 (深澤常任理事)

〈決定〉

原田常任理事の退任に伴い、外部各委員会等の後任委員を決定。

第3号 第129回北海道医師会定時代議員会の処理事項に関する件 (深澤常任理事)

〈決定〉

3月16日開催の定時代議員会で採択された決議文を日医会長、都府県医師会長、郡市医師会長、国会・道議会議員、市町村議会議長、政党、関係省庁、マスコミ等682件に送付する(3月21日発送、事後承認)。

第4号 日本医師会生涯教育講座等の認定に関する件 (渡辺常任理事)

〈決定〉

申請のあった日医生涯教育講座15件、道医認定生涯教育講座19件、合計34件を承認する。

第5号 その他

(1) 4月行事予定に関する件 (事務局)

〈決定〉

提案どおり承認決定。

報告事項

1. 都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会 [3月13日(木)] について (北野常任理事)

唐澤会長の挨拶に続き、役員等から日医医療関係者対策委員会報告書と日医「看護職員確保対策」潜在看護職員再就業支援モデル事業に関して報告があった。その後、厚労省より「看護職員に係わる最近の動向」について説明があり、質疑応答が行われた。

2. 日医生涯教育協力講座セミナー「生活習慣病の克服をめざして」[3月15日(土)] について (渡辺常任理事)

午後2時から午後5時まで共催ホールで開催した。テーマは「生活習慣病の克服をめざしてー特定健診・特定保健指導のすべてー」、参加者は461名。長瀬会

長より開会の挨拶が行われた後、世話人である札幌医大医学部内科学第二講座・島本和明教授が座長となり、厚労省生活習慣病対策室・関英一室長による基調講演「生活習慣病対策ー厚生労働省の取り組みー」、また、尼崎市役所国民年金課健康支援推進担当・野口緑氏による講演「特定健診・特定保健指導ー尼崎市の取り組みー」が行われた。その後、羽田旭川医大教授より北海道医師会の糖尿病対策について、和漢全人会花月クリニック院長・辻和之氏より新十津川町の特定健診・特定保健指導の取り組みについて、同じく三戸常任理事より北海道医師会における取り組みについて各々講演、引き続いてパネルディスカッションがあり、活発な質疑応答が行われた。

3. 北海道小児救急地域医師研修事業打合せ会[3月17日(月)] について (目黒常任理事)

当会から本年度の研修会の実施状況、北海道小児科医会からは、研修会の際に行ったアンケート結果についてそれぞれ報告した。

4. 北海道子ども未来推進局との打合せ[3月18日(火)] について (西里常任理事)

平成20年度の妊婦一般健康診査の実施に係る単価について北海道と協議した。道担当者から、当会医療保険部ならびに北海道産婦人科医会役員に対し説明がなされ、平成20年度の単価については、今次診療報酬改定の点数に準拠し設定することです承した。

5. 産業保健特別研修会[3月22日(土)] について (小山常任理事)

「メンタルヘルスケアに関する専門医との連携」をメインテーマとして、現在、当会が作成中のガイドラインをもとに、北海道医療大学・中野倫仁教授より「うつ病の初期診断と治療」、札幌鉄道病院保健管理部・佐藤広和主任医長より「職場のメンタルヘルスー精神科医との連携について」と題して、それぞれ講演された。受講者は205名。

6. 地域産業保健センター連絡協議会[3月22日(土)] について (小山常任理事)

畑副会長から挨拶の後、議事に入った。北海道労働局から「小規模事業場の労働者に対する面接指導」の相談窓口、労働安全衛生法にもとづく健診項目の改正等について説明、北海道産業保健推進センターからは「過重労働者に対する面接指導のチェックリスト」および地域産業保健センター用の「長時間労働者の面接指導チェックリスト」について説明があった。道医からは19年度に「うつ病の初期治療や適切な対応に関して」のガイドラインを作成し、平成20年度はこのガイドラインをもとに道内数カ所で研修を行うことを説明。その後、活発な意見交換が行われた。

7. 外部各委員会報告

(1) 発達障害者支援体制整備検討委員会[3月12日(水)] について (三戸常任理事)

3月12日（水）、午後5時10分から6時50分まで道庁赤れんが庁舎にて行われた。始めに、事務局より2月17日に開催された「発達障がい児(者)支援を考える道民フォーラムの総括」について、アンケートの記載内容を含む報告が行われ了承された。続いて、最終報告書（案）の内容確認に入り、乳幼児期・学齢期・成年期の各ワーキンググループより報告内容の要点などについて説明が行われた。各々の説明後質疑があり、一部修正することを確認し、取りまとめた上で、3月中に報告することで了承決定した。

(2) 第3回北海道医療審議会[3月19日（水）]について（長瀬会長）

北海道医療計画について原案どおり答申した。がん診療連携拠点病院については、平成24年度末の整備目標として地域拠点病院20施設、都道府県拠点病院1施設を設定。また、独自に三医大病院を高度な医療機能を有する中核病院と位置付けることが了承された。へき地等病院の医師配置標準特例措置の許可については、新規2件、更新3件が審議され、了承された。北海道医療計画答申書は3月24日（月）午後1時に道庁知事応接室において、会長である小職から高橋知事に手交した。

(3) 北海道災害拠点病院等連絡協議会[3月20日（木・祝）]について（目黒常任理事）

市立函館病院よりDMAT派遣体制について講演があり、その後、北海道における災害医療体制について意見交換が行われた。

(4) 北海道医療費適正化計画検討協議会[3月21日（金）]について（畑副会長）

先の計画素案に対するパブリックコメントの結果について報告を受けたのち、「北海道医療費適正化計画（案）」について最終協議を行い確定した。

(5) 北海道看護職員確保モデル事業検討会[3月25日（火）]について（北野常任理事）

再就業促進に係わる研修事業の実施結果・評価の説明があった。また、平成20年度の事業計画について協議された。

8. その他

(1) 地域医療を守る医療者と市民の集会[3月19日（水）・北見]について（直江常任理事）

北見医師会主催で開催され市民約220名が参加した。北見医師会・森本理事から「日本の医療の現状」と題した基調講演の後、患者代表、北見日赤・荒川副院長、北見医師会・小野寺理事、北見市保健福祉部・堀内部長、船橋道議の5名の演者によりパネルディスカッションが行われた。複数の市民から、住民としても安易なコンビニ受診は控えるべきというフロア発言があった。

道医の動き

3月11日	第24回常任理事会、情報広報部担当理事会・広報委員会合同会議、道医療政策課救急医療グループとの打合せ	3月18日	道保健福祉部子ども未来推進局との打合せ、日医理事会（飯塚顧問）
3月12日	道社会保険事務局保険課・道保健福祉部国保課との打合せ、日医男女共同参画委員会（藤井常任理事）	3月19日	母体保護法指定医師審査委員会
3月13日	都道府県医師会医療関係者担当理事連絡協議会（三宅副会長、北野常任理事）	3月20日	社会保険医療指導委員連絡協議会
3月14日	日医総研戦略会議（河西委員）	3月21日	新型インフルエンザについての意見交換会
3月15日	代議員会議事運営委員会、第25回臨時常任理事会、日医生涯教育協力セミナー	3月22日	裁定委員会、産業保健特別研修会、地域産業保健センター連絡協議会
3月16日	第129回定時代議員会、平成20年定時総会、日医代議員打合せ会	3月23日	診療報酬点数表改定伝達講習会（～28日）
3月17日	小児救急地域医師研修事業に関する打合せ	3月24日	三役会
		3月25日	第26回常任理事会、医療政策部・救急医療部合同担当理事会
		3月31日	北海道ブロック選出日医代議員打合せ会、日医代議員会議事運営委員会（宮本副会長）
		4月 1日	第118回日医定例代議員会（～2日）
		4月 2日	第66回日医定例総会
		4月 7日	三役会
		4月 8日	第1回常任理事会、指定時講習会、広報委員会
		4月 9日	産業保健部担当理事会